

一四〇二番

こと放さけば 沖おきゆ放さけなむ 湊みなとより 辺へ付つかふ
時ときに 放さくべきものか

一四〇三番

み幣ぬさと取り 三み輪わの祝はふりが 齋いはふ杉すぎ原はら 薪たきぎ伐こりほとほ
としくに 手て斧をの取とらえぬ

一四〇四番

鏡かがみなす 我わが見みし君きみを 阿あ婆ばの野のの 花はな橘たちの
珠たまに拾ひりひつ

一四〇五番

秋あき津づ野のの 人ひとのかくれば 朝あさ撒まきし 君きみが思おもほえ
て 嘆なきは止やまず